

追悼文

金澤 一郎 先生を偲ぶ

葛原 茂樹

鈴鹿医療科学大学看護学部教授，三重大学名誉教授



故 金澤一郎先生

(現職) 国際医療福祉大学大学院名誉大学院長，東京大学名誉教授。
 (略歴) 1967年東京大学医学部卒業。研修後に豊倉康夫教授主宰の東京大学神経内科に入局。1974年英国ケンブリッジ大学に留学，1976年筑波大学臨床医学系神経内科講師，助教授，1990年教授。1991年～2002年東京大学医学部神経内科 教授。その間，文部省学術国際局科学官，東京大学医学部附属病院院長などを兼任。1996年より日本内科学会理事長，2002年より日本神経学会理事長を歴任。2003年～2007年国立精神・神経センター総長。2006年～2011年日本学術会議会長(第20・21期)。2007年～2008年厚生労働省医道審議会医道分科会部会長，厚生審議会疾病対策部会長，同難病対策委員会委員長を歴任。2007年国際医療福祉大学大学院教授，2011年同大学大学院長。2015年1月国際医療福祉大学大学院名誉大学院長。
 2002年～2012年宮内庁長官官房皇室医務主管。2013年に瑞宝重光章を受章。

元日本神経学会理事長で国際医療福祉大学大学院名誉大学院長，東京大学名誉教授の金澤一郎先生は，2016年1月20日午後に膵臓がんのためご逝去されました。享年74歳でした。私人としては暖かくて気さくで親切でしかも頼もしいお人柄であった一方で，公人としては神経学や臨床医学の分野にとどまらず，広く自然科学・社会科学を含めた日本の学術や医療を束ねる卓越したリーダーとして，縦横無尽の活躍をしてこられました。先生のご功績とご遺徳を忍び，謹んで哀悼の意を表します。

先生は東京都のお生まれで，昭和42年(1967年)に東京大学医学部を卒業されました。インターン終了後に東京大学生化学教室で脂質生化学を修められた後に，新設されたばかりの東京大学神経内科(豊倉康夫教授)に入局されました。私が内科系研修を終えて神経内科に入局した1972年当時，金澤先生は病棟の指導医で，私は先生から，病歴の取り方，ハンマーや診察器具を駆使した神経学的診察法，カルテの記載法，病歴のまとめ方，文献の調べ方と読み方，腰椎穿刺法，脳血管撮影法，プレゼンテーションの仕方から教授回診の対処法まで，手を取って教えていただきました。先生は理詰めだけでなくヒラメキも優れていて，言葉も動作もメリハリが効いた教え上手の卓越した臨床神経学の教師でした。

黎明期にあった当時の我が国の神経学において，研究手法の主流は神経症候学と神経病理学でしたが，金澤先生は病態を物質レベルで解明することを目指し，病棟や外来の仕事を終えられてからは，生化学教室で脳を構成する脂質の研究に熱中しておられました。しかし，順天堂大学の橋本博太郎教授を中心に，パーキンソン病・大脳基底核疾患を生理学と生化学から研究する神経科学研究グループが生まれるや，金澤先生は神経活性物質に注目され，東京医科歯科大学の大塚正徳教授の研究室で神経伝達物質の研究を開始されました。直ぐにGABAやサブスタンス-Pで新知見を発見され，1974年からは英国ケンブリッジ大学薬理学教室に留学して次々と業績を発表されました。しかし，輝かしい成果に満足することなく新しい科学の波を察知する努力を怠らず，神経変性疾患の病態を遺伝子の機能から解明する分子生物学が1980年代に勃興するや，直ちにその重要性と発展性を見抜きハンチントン病とパーキンソン病の研究に導入されました。金澤先生の先導によって，分子生物学は瞬く間に神経疾患研究の主流になりました。本物を見抜く慧眼と，新しい流れに身を投じる勇氣には，いつも敬服させられ通してでした。

金澤先生は1976年帰国と同時に筑波大学臨床医学系神経内科(中西孝雄教授)に赴任されました。この年に筑波大学附属病院が開院して定員が増えたので，3人目の教員として私に声が掛かり，1977年3月付で筑波大学に異動しました。この時から6年間，金澤先生と一緒に働かせていただく機会に恵まれました。整備途上の当時の筑波大学には講義実習棟と附属病院だけができており，教員用の研究棟はありませんでした。しかし，金澤先生は学生実習用実験室の一郭に生化学や薬理学の教員と共同の研究スペースを設け，多忙な教育と診療をこなしながらケンブリッジ大学から持ち帰られた最新の研究手法を用いて研究を続行し，若手でありながら筑波大学の神経科学研究者の中心的存在になって，学外・学内の大型の研究プロジェクトの代表として活躍しておられました。

先生が英国から持ち帰られた研究手法の一つが，HRPを標識物質にして逆行性軸索流を利用する神経起始核同定法でした。この方法を利用すれば，括約筋機能が末期まで保たれるALSの仙髄で残存するオヌフ核が，会陰部外括約筋支配神経

核であることを直接に決定できるのではないかとご相談したところ、すぐに「出来る筈だ」と言って下さり実験に取り掛かることになりました。ラットによる研究は既に他所で先行しているらしいと聞き、イヌとネコを使用することにしました。当時、HRP 法は幼若動物が使用されていたので、仔ネコと母犬付きの哺乳中の仔イヌを使って実験をしました。昼間の大学の仕事を終えて帰宅して夕食を済ませ、午後 9 時に動物舎に集合し、動物に麻酔をかけて内括約筋と外括約筋に HRP を注入し、数日から 1 週間待って灌流固定して脊髄を取り出し、クリオスタットで凍結切片を作り、DAB で発色させて起始核を同定するまでが一工程です。実験では未熟な私に、金澤先生は徹夜でずっと付き合っ指導しながら手伝って下さいました。苦勞の末に納得いくデータが出たときは、二人で歓声を上げて喜び合いました。これは、私の学位論文になった思い出の共同研究です。

金澤先生は、1990 年に筑波大学教授に就任され、翌年に東京大学神経内科学教授として異動され、2002 年からは国立精神神経センター神経研究所長、同総長を務められました。その間に、日本内科学会理事長、東京大学附属病院長、日本神経学会理事長、日本学術会議会長などの要職を歴任されました。日本神経学会理事長ご在任中、私は理事としてお手伝いし、後任の理事長として再びご指導を仰ぐ機会に恵まれました。社会的問題にも科学者として発言され、健康被害の原因となっている誤ったホメオパシーに対しては、学術会議会長談話で明確に批判されました。医療の分野でも、厚生労働省医道審議会医道分科会部会長、同省厚生科学審議会疾病対策部会長・難病対策委員会委員長などを歴任され、特に難病法の法制化に多大な努力を払われました。また、患者さんの人権や医療倫理を守ることに、常に腐心しておられました。異色のお仕事として宮内庁長官官房 皇室医務主管を 10 年以上 2002 年～ 2014 年にわたって務められ、天皇・皇后両陛下と皇室の健康管理に尽力され、2013 年に瑞宝重光章を受章されました。

2014 年 1 月に開催された受章祝賀会でお元氣な姿を拝見し

た直後に膵臓がんが見つかり、先生は闘病生活に入られました。治療が始まった頃は心身ともに相当消耗されていましたが、2014 年末に退院された後は大学院院長のお仕事に復帰され、ビデオ映像を使って講義も続けておられました。再入院されたとき、1 月 8 日にお見舞いにお伺いした時にはお元氣そうで、先生が手掛けられた国際医療福祉大学医学部新設計画が昨年 11 月末に政府の会議で認められ、2017 年 4 月開校予定となったことを非常に喜んでおられました。私の健康まで気遣って下さり、「お互いにしぶとく生きましょう」と仰って固く握手していただき、とても励まされた気持ちで病室を後にしました。その時のしっかりしたお姿がいまだに目に焼き付いていて、ご逝去に対して未だに現実感が湧きません。

秀でた臨床医、神経科学者、教育者として多くの人から慕われただけでなく、神経学会の枠を超えた大きなスケールで、医学会、学術会議、そして医療と科学技術の政策分野の指導者として活躍された金澤先生の志と教えは、いつまでも私たちの心の中に生き続け、育ち行くものと信じます。金澤先生、安らかにお休みください。そして、いつまでも私たちを見守っててください。

合掌

文 献

- 1) Kanazawa I, Toyokura Y. Topographical study of the distribution of gamma-aminobutyric acid (GABA) in the human substantia nigra. A case study. *Brain Res* 1975;100:371-381.
- 2) Kanazawa I, Jessell T. Post mortem changes and regional distribution of substance P in the rat and mouse nervous system. *Brain Res* 1976 26;117:362-367.
- 3) Kanazawa I, Kondo I, Ikeda JE, et al. Studies on DNA markers (D4S10 and D4S43/S127) genetically linked to Huntington's disease in Japanese families. *Hum Genet* 1990;85:257-260.
- 4) 金澤一郎. ハンチントン病を追って：臨床から遺伝子治療まで. 科学技術振興機構, 2006. 6.
- 5) 金澤一郎. 今後の難病対策への提言. *保健医療科学* 2011;60:84-88.